

美術の表現・技法・材料に関する多角的研究 (①企04-13-3/5)

目 的

本研究は彫刻や絵画といった様々な美術作品を構成する材料やそこに用いられた技法、ひいては表現、その制作過程、作品の成り立ち、生成されてから今日にどう至ったか、それがどのように受容されてきたか等を、関連書分野と連携しながら多角的に分析し、現在目の前にある「作品」ないし文化財に対するより深い理解を形成することを目的としている。

成 果

1. 作品・関係資料の調査・研究

今年度は以下の各機関・所在地にて各種の文化財を調査した。

- ア) 東京国立博物館 国宝絹本着色普賢菩薩像
- イ) 滋賀県甲賀市 檜尾寺木造釈迦如来立像の透過X線撮影調査
- ウ) 日本国内螺鈿工房（横浜市内・奈良市内）及び個人所蔵コレクション（小田原市内）
- エ) メトロポリタン美術館蔵 朝鮮・日本・中国螺鈿漆器、韓国国立中央博物館蔵 高麗時代螺鈿漆器

2. 彩色関係データベース（語彙・史料編）の公開及び研究所所蔵ガラス乾板のデジタル化

美術工芸品の彩色で重要な、史料上の関係語彙と使用例の総覧を目的に彩色関係資料データベース（語彙・史料編）のデータ集積とホームページでの公開を行った。集積に際しては公刊史料（活字本）をもとにその中から彩色関係の語彙を抽出・分類し「彩色関係資料データベース」をホームページ公開するとともに、校訂・更新を実施した。また今年度より、研究所が戦前から戦後にかけて絵画・彫刻類を中心として撮影した20,000枚を超えるガラス乾板について透過光撮影法によるデジタル化作業を実施した。これらのデータは目録文字情報の補訂を行い、研究所ホームページなどで逐次公開する計画である。

3. 寄贈資料の整理

前中期計画に引き続き今年度も表現技法材料研究ととくに関わりの深い久野健旧蔵資料中の手書き調査ノートへのデータ入力と写真資料整理、および秋山光和旧蔵スライドをスキャニングしデジタルデータ化した。

報告

- ・小林達朗「美しい術—国宝千手観音像の場合」『第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 プレ・プリント』東京文化財研究所 pp.24-25 14.1

発表

- ・小林達朗「東京国立博物館蔵国宝本・千手観音像の表現」2013年第4回企画情報部研究会 東京文化財研究所 13.7.30
- ・小林達朗「平安仏画の表現」第47回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」東京文化財研究所 13.10.4
- ・小林公治「螺鈿を訪ねて西へ東へ—5,000年の世界史を探る—」第47回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」東京文化財研究所 13.10.5
- ・小林達朗「美しい術—国宝千手観音像の場合」第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 東京文化財研究所 14.1.11

研究組織

- 小林公治、田中淳、山梨絵美子、塩谷純、津田徹英、二神葉子、綿田稔、小林達朗、皿井舞（以上、企画情報部）、江村知子（文化遺産国際協力センター）、中野照男（客員研究員）